

名誉会員追悼



故 名誉会員 池島俊雄 君

社団法人日本鉄鋼協会名誉会員、元大阪チタニウム製造(株)(現住友チタニウム(株))会長、元住友金属工業(株)副社長、池島俊雄氏は、平成17年9月7日逝去されました。享年90歳。ご逝去の報に接し謹んで哀悼の辞を申し上げます。

氏は、昭和13年3月東京帝国大学理学部物理学科を卒業後、直に住友金属工業(株)に入社し、同社鋼管製造所に配属されました。その後、同所研究部長、昭和37年同社中央技術研究所副所長、同社取締役技術部長、常務取締役第二技術開発部長、専務取締役中央技術研究所所長を経て、昭和51年6月同社副社長に就任しました。昭和57年6月、同社副社長を退任するや大阪チタニウム製造(株)ならびに九州電子金属(株)社長に就任、昭和62年6月に大阪チタニウム製造(株)代表取締役会長に就任した後、同社相談役等を歴任しました。

氏は、同社に入社当時、世界的にも未知の分野であった鋼の熱間加工における変形抵抗の実験的研究をおし進め、測定法の確立とデータの蓄積を行い、圧延技術の理論的研究の基礎を確立しました。また、昭和36年同社和歌山製鉄所にホットストリップミルが設置されると共に、ミルセットアップや巻取温度制御など本研究と圧延理論を基礎とする計算機制御方式を開発実用化し、その後、厚板ミルや薄板タンデム等の計算機制御へと発展拡大させました。

氏はまた、ボイラ用鋼管として高温材料の研究開発に取り組み、戦後電力需要増大期には、低合金鋼管やオーステナイト系ステンレス鋼管の国産化に寄与しました。昭和40年代の超臨界圧ボイラの出現に際しては、炭素鋼管の高強度化、内面溝付鋼管の実用化をはたしました。中でも低炭素で溶接性、高温強度の著しく向上した9%Cr-2%Mo鋼管の製造は鋼管の薄肉化が計られ、より経済的なボイラ設備の設計を可能にしました。原子力発電の開発にあたっては、ジルコニウム合金被覆管、BWR大径厚肉ステンレス配管用鋼管、PWR主蒸気管用75%Ni合金管などの国産化をはたしましたが、中でも応力腐食割れにきわめて優れた、低炭素、窒素、Mo添加ステンレス鋼管の開発実用化は原子炉の信頼性向上に大きく寄与しています。

氏は、鉄鋼業におけるエネルギー問題にも注目し、非粘結炭から良質の製鉄用コークスの製造を可能にする成形コークス製造研究開発をうながし実用化を牽引しています。さらに石油代替エネルギーとして、溶剤抽出法を利用した石炭の液化技術開発(ナショナルプロジェクトとして採用)、鉄溶湯を熱媒体として硫黄分など不純物の少ない石炭ガス化法の技術開発をなしました。

本会事業にあたっては、昭和50年4月より2年間副会長を務め、事業の推進に努めました。

以上のように、鉄鋼製造の研究に卓越した業績により、本会から昭和21年渡辺三郎賞、53年に西山賞、60年に製鉄功労賞を授与され、日本金属学会より30年に功績賞、国家より50年に科学技術庁長官功労賞、52年には藍綬褒章を授与されています。

氏が鉄鋼技術と本会の発展に尽された多大なご業績を偲び、会員一同、心からの哀悼の意を捧げ、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

平成17年9月

日本鉄鋼協会 会長 奥村直樹